

“日本画像学会誌原稿執筆要項”

(2019年04月01日改訂)

一般社団法人日本画像学会 編集委員会

1. 投稿形式

投稿原稿は、以下の MS-Word 原稿とする。専用のテンプレートが用意してあるので、利用されたい*。なお、MS-Word 原稿は投稿の際に自動的に PDF ファイルに変換される。MS-Word 以外のファイル形式を利用する場合は、PDF ファイルでの提出を原則とする。

* http://www.isj-imaging.org/ISJ_journal/e-submission.html 参照。

1.1 標題ページ（原稿 1 枚目）

原稿 1 枚目には、題名（日英）、著者氏名（日英）、を記載する。また、脚注として、所属機関名、所在地名（日英）及び連絡先を記載する。さらに、投稿原稿代表者の電子メールアドレスも記載する。

1.2 要旨（原稿 2 枚目）

原稿 2 枚目には、日本文要旨（論文・解説記事では 300～450 字、ショートノートおよび研究速報では約 300 字）、日本文キーワード約 5 単語、英文要旨（論文・解説記事では、100～150 words、ショートノート及び研究速報では約 100 words）、および英文キーワード約 5 words を記載する。

1.3 本文ページ（原稿 3 枚目以降）

本文ページは、1 段組みで文章を記載し、編集可能な 1) 本文テキストと 2) 図および 3) 表とをそれぞれ、別々にまとめた構成とする。全体の頁数は、論文の場合は刷り上が 10 頁以内とする。ノートは刷り上り 2 頁以内とし、速報は刷り上り 4 頁以内とする。

2. 本文の書き方

2.1 論文名のタイトル：

論文名のタイトルについては、以下の通りに記載する。

(1) 英文タイトルのすべての単語の先頭を大文字とする。

（図のタイトルは、通常のように最初の文字のみ大文字にする）

(2) 複数の執筆者の英文表記では、○, ○, and ○のように、and の前に“コンマ”を入れる。但し、二人の場合には、○ and ○ のように“コンマ”は入れない。

(3) 名前と苗字の間は半角空ける。例：J. MIZOGUCHI（正）、J.Mizoguchi（誤）

2.2 本文の章立て：

本文の章立て構成の仕方は、以下の通りに記載する。

(1) 章の表し方 “1. ○○”

(2) 節の表し方 “1.1 ○○”

(3) その下の段落表現は、“1.1.1 ○○”あるいは“(1)”, “(b)”, “(iii)”等を用いる。但し、①（丸付き文字）、VI（全角のローマ数字）等の機種依存文字は用いてはならない。

例) 1. 序論

2. 実験

2.1 装置

(1) 測定装置

(2) 評価装置

2.2 方法

3. 結果と考察

4. 結論

謝辞

参考文献

- 2.3 文章は当用漢字現代かなづかい（ひらがな）を用い簡明に書く。なお、本学会は異なる専門分野の会員の集まりであることに留意して用語、記述が著しく専門的にならぬように配慮する。また、①（丸付き文字）、ℓ（全角のローマ数字）等の機種依存文字は用いてはならない。
- 2.4 術語は原則として“画像技術用語集”（日本画像学会編，改訂版 2007.5.30）に、物質名は IUPAC 命名法に従い、原則として文部省編の“学術用語集”による。欧語名の方がわかりやすい場合には欧文つづりでもよい。なお、術語とまぎらわしい登録商標名（例えばコピー（ヤ）、リコピー、ゼロックスなど）は日本語名、欧語名とも術語としては使用しないように留意する。
- 2.5 量記号、符号は慣用のものに従い、単位は原則として SI 単位に統一する。
- 2.6 文中、特に数式中における活字体の指定（イタリック、ゴシック等）は明瞭にする。また、添字のある文字、誤解されやすい文字、大文字と小文字の指定は一見してわかるようはっきり書く。
- 2.7 図、表の番号は Fig. 1, Table 3 のように書く。写真は図（Fig.）に含める。

3. 図面・表の書き方

印刷時は、カラーを用いることでより理解度が高まる場合を除き白黒印刷される。グラフ、図において色を使用する際には色相での区別ではなく、明度での区別を考慮して作成する。但し、電子版原稿についてはカラーで掲載される。

3.1 図面の書き方

以下の注意に従って、対応の図面を本文中に作成する。

- (1) 図面は全て英文とする。
- (2) 本文中では、Fig. 1 等と記載する。
- (3) 図面中の言葉の説明は、最初のみ大文字とする。
例：Transfer roller, 等
- (4) 図の説明文（タイトル等）の最後には、ピリオドを付す。
例：Fig. 1 Toner image transfer model.
- (5) 図面の縦軸及び横軸の目盛個数は4～5個を目安とする。
- (6) 縦軸・横軸の単位記号は、(mm) のように記載する。
- (7) 図の体裁については、以下に従う。
 - 1) グラフ図の領域を示す囲い込み線（グラフ境界線）は削除する。
 - 2) グラフのパラメータ（記号）の説明である凡例を囲む外枠（凡例外枠線）は削除する。
 - 3) 縦軸・横軸およびそれぞれと対をなす2つの線で構成されるグラフ領域に凡例を入れる。
 - 4) グラフ内のデータを示す線は、縦軸・横軸の軸線より太めにする。
- (8) 指数関数文字は、 10^{12} のように上付き数字にて標記する。
- (9) 文字と単位記号の間は“半角空ける”。
例：10 mm, 10 kg, 但し、%は半角空けない。
- (10) 物理量を表わす文字は“斜体（イタリック体）”とする。
例：抵抗 R
- (11) ベクトルを表す文字は、“ボールド体”とする。
(例) 電界 E
- (12) 数のべき乗の大きさを示す、n（ナノ）、m（ミリ）、k（キロ）、等は一般に小文字で記す。但し、テラを示す“T”、やギガを示す“G”は大文字とする。
- (13) 単位記号の大文字、小文字は注意する。
例：電荷量を示す“C”，や時間の秒を示す“s”は要注意。
- (14) パラメータ名と記号及び単位の並べ方については、Surface resistivity R (Ωcm) とする。
- (15) 2語以上の用語は最初のみ大文字とする。
- (16) 単位系はSI 単位系とする。

3.2 表の書き方

以下の注意に従って、対応の表を本文中に作成する。

- (1) 表は全て英文とする。
- (2) 本文中での記載の仕方は、Table 1 等と記載する。
- (3) 表の中での言葉の説明は最初のみ大文字とする。
例：Transfer roller, 等
- (4) 表の説明文（タイトル等）の最後には、ピリオドを付す。
例：Fig. 1 Toner image transfer model.
- (5) 表は基本的には横線のみで記載する（例参照）。
例：

Material	Capacity ($\mu\text{F}/\text{m}^2$)	Charge-to-mass ratio q/m ($\mu\text{C}/\text{g}$)		
		No background noise	Image density	Optimum range
Se	0.7	10-30	≤ 13	10-13
OPC	1.4	6-35	≤ 22	6-22
a-Si	8.9	3-38	≤ 53	3-38

- (6) 単位記号は、(mm) のように記載する。
- (7) 表中の指数関数文字は、 10^{12} のように上付き数字にて表記する。
- (8) 文字と単位記号の間は“半角空ける”。
例：10 mm, 10 kg, 但し、%は半角空けない。
- (9) 物理量を表わす文字は“斜体（イタリック体）”とする。
例：抵抗 R
- (10) ベクトルを表す文字は、“ボールド体”とする。
(例) 電界 E
- (11) 数のべき乗の大きさを示す、n (ナノ), m (ミリ), k (キロ), 等は一般に小文字で記す。但し、テラを示す“T”, やギガを示す“G”は大文字とする。
- (12) 単位記号の大文字, 小文字は注意する。
例：電荷量を示す“C”, や時間の秒を示す“s”は要注意。
- (13) パラメータ名と記号及び単位の並べ方については、Surface resistivity R (Ωcm)とする。
- (14) 2語以上の用語は最初のみ大文字とする。
- (15) 単位系はSI 単位系とする。

4. 参考文献の書き方

参考文献は以下の注意書きにしたがって記載すること。1つの文献番号は1つの文献のみを記載し、著者名が同じ複数の文献を扱う場合にも、文献番号を別として、記述すること。

4.1 学術雑誌・研究技法など

例：

- 1) K. Nakajima, “Current Bubble Jet Technology,” Journal of the Imaging Society of Japan, **41**, pp.159-166 (2002) [in Japanese].
- 2) D.S. Rimai, H. Yang, E. Stelter, T.N. Tombs, P. Lambert, and D.S. Weiss, “Adhesion of Silica-Coated Toner Particles to Bisphenol-A Polycarbonate Film: Effect of Toner Charge,” Journal of Imaging Science and Technology, **53**, pp. 020502.1-020502.6 (2009).

【記載上の注意】

※ 「著者, “題名,” 雑誌名, 巻, 頁 (発行年).」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,)にて区切り, 英文で記載する.

- (1) 著者名はフルネームで全員を記入し, 「半角コンマ+半角スペース」(,)で区切る.
- (2) 英文の名前では, ファーストネームおよびミドルネームは省略して表記しても良く, その場合にはファーストネームとミドルネームそれぞれの略称の間には半角スペースを設けない. 但し, ファミリーネームの前には半角スペースを入れる.
- (3) 著者が二人の場合には, and を用いて, 全員を記載する.
- (4) 著者が三人以上の場合には, 「半角コンマ+半角スペース」(,)にて区切り, 最終著者(発明者)は「and」を用いて区切る. このとき, 「and」の前には「半角コンマ+半角スペース」(,)の区切りを記載する.
- (5) 論文タイトルは半角のダブルクォーテーション「“題名”」の間に記載する.
- (6) 学会誌の巻数(Vol.)および号数(No.)については, 巻数(Vol.)の数字のみをボールドにて記載(例: Vol.41, No.1ならば**41**).
- (7) 論文の頁数は最初と最後のページ数をハイフンにて結び, 「pp.」(単一ページの場合は「p.」)に続けて記載する.
- (8) 発行年は頁数の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(発行年)」内に半角数字で記載する.
- (9) 文献の最後は半角ピリオド「.」を付す.
- (10) 文献の本文が和文であるものを英文表記した場合には, 最後(1つの文献の最後を示す半角ピリオド「.」の前に「[in Japanese]」を記載する.
- (11) 雑誌などの英文名称が規定されていない場合には, ローマ字で記載する.

4.2 学術会議予稿集(論文集)など

例:

- 3) N. Nagayama, N. Nakamura, and M. Yokoyama, “Pixel Image Formation on a Multi-Layered Organic Film Installed with Pixel -Like Floating Electrodes,” Proceeding of NIP20: International Conference on Digital Printing Technologies, Society for Imaging Science and Technology (2004), pp.543-546.

【記載上の注意】

※ 「著者, “発表タイトル,” 会議名, 主催学会(開催年), 頁.」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,)にて区切り, 英文で記載する. 各項目の記述上の注意事項は, 先述した[学術雑誌・研究技法など]に準ずる.

- (1) 会議名に主催学会名や開催年が含まれる場合は, 続けて記述する主催学会や(開催年)を省略できる.
- (2) 会議名に主催学会名のみが含まれる場合には, 開催年の記載は会議名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(開催年)」内に半角数字で記載する.
- (3) 開催年の記載は主催学会名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(開催年)」内に半角数字で記載する.

4.3 単行本などの出版物

例:

- 4) Edited by E. Inoue and S. Kikuchi, “Insyu Kogaku,” Kyoritsu Shuppan (1975), pp.5-10 [in Japanese].
- 5) N. Bunce, “Environmental Chemistry”, Wuerz Publishing Ltd., pp. 1-115 (1991).

【記載上の注意】

※ 「著者, “出版物タイトル,” 出版社名(発行年), 参考頁.」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,)にて区切り, 英文で記載する. 各項目の記述上の注意事項は, 先述した例に準ずる.

- (1) 発行年の記載は出版社名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(発行年)」内に半角数字で記載する.
- (2) 参照頁は, pp.5-10のように記載し, 単一頁の場合は, p.10のように記載する.

4.4 特許

例:

- 6) S. Nagai (Nihon Musen), Japanese Patent Disclosure S58-121029 (1983).
- 7) K. Chiba (NHK), USP-4406964 (1983).

【記載上の注意】

※ 「発明者 (出願者), 公開番号または特許番号。」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り記載する。各項目の記述上の注意事項は, 先述した例に準ずる。

- (1) 発明者名はフルネームで全員を記入し, 「半角コンマ+半角スペース」(,) で区切る。
- (2) 原則として公開番号もしくは特許番号で記載し, 公開番号等のハイフンは, 半角文字「-」で記載する。
- (3) 上記の例のほか, 平成の場合は, Hxx-xxxxxx, 2000 年以降は, 20xx-xxxxxx などと表記する。

4.5 電子ジャーナル

例:

- 8) K. Nakajima, "Current Bubble Jet Technology," Journal of the Imaging Society of Japan, **41**, pp.159-166 (2002) [in Japanese]. (http://www.isj-imaging.org/ISJ_journal/e-submission.html).

【記載上の注意】

※ 雑誌と同様に, 「著者, "題名," 雑誌名, 巻, 頁 (発行年)」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り, 英文で記載する。日本語文献の場合は[in Japanese]を付す。さらに, 最後に URL を示す。

4.7 Web サイト等の電子情報

例:

- 9) http://www.isj-imaging.org/ISJ_journal/e-submission.html, (accessed 2012-01-19).

【記載上の注意】

※ Web サイト上に記載されている情報を掲載する場合には, その情報の真実性に十分注意してとりあつかう。また記載の際には, URL と共に, 参照した日付を()内に併記する。用語解説等の Web サイトは参考文献として取り扱ってはならない。

5. 著者略歴

著者全員の略歴を記載し, 写真 (電子データ可) を添付する。略歴の記載要領は, 以下のとおりとする。

例:

田中 弘治

1984 年 □□大学大学院理学研究科 (物理学専攻) を修了。

1985 年 □□□□メーカーを経て□□□□株式会社に入社。□□□記録技術の新技术開発を経て, 1990 年より□□□□技術の開発を担当。□□□□技術, 計測システムなどの開発に従事。現在, □□□□技術を含むプリント技術全般にわたる戦略技術開発を担当。

(注記: 学会などで受賞歴がある場合は, 該当年の受賞内容を記載してください)

6. 投稿方法

投稿方法は, 下記の投稿用 HP (J-Stage) *を通しての電子投稿を原則とし, その環境にない場合, 紙出力物による投稿を認める。

* <http://www.editorialmanager.com/jisj/> 参照。

7. 修正原稿の再提出の方法

査読後, 内容修正を加え, 書き直した原稿 (新原稿とする) の再提出時には, 新原稿を修正前原稿 (旧原稿) と同様に, 新 MS-Word ファイルとして取り纏め, 旧原稿 (旧 MS-Word ファイル) と一緒に, 査読者の審査意見およびそれに対する著者の回答書を附して, 電子投稿システムにて送信する。紙出力による投稿の場合は, 同書類を事務局編集委員会宛に郵送する。

8. 掲載可となった場合の出版用最終原稿の提出

8.1 本文ページの出版用最終原稿の形式

投稿時と同様に, 編集可能な 1) 本文テキストと 2) 図および 3) 表とをそれぞれ, 別々にまとめる。

8.2 出版用最終原稿の提出

標題ページ，および本文テキスト，図，表，略歴，ならびに著者紹介用の写真の電子データを，電子投稿システムにて送信する．紙出力による投稿の場合は，同書類を事務局編集委員会宛に郵送する．

9. 原稿コピーの保存

著者自身でコピーを必ず保存しておく．著者校正の際，原則として原稿を添付せずに校正刷りのみを送付するので，そのコピーにより校正を行うこととする．

◎ 原稿送付先（※紙出力による投稿の場合）

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大学内
日本画像学会事務局内 編集委員長 宛
(日本画像学会 TEL: 03-3373-9576 FAX: 03-3372-4414)

◎ 掲載料と論文別刷代金（2019年4月1日以降の投稿論文から料金改定）

論文掲載料は1頁5000円とする．著者のうち希望者は別刷を購入できるものとし，別刷代金は以下のように50部を単位とする．

頁数	50部	100部	150部	200部	250部
1	4100	7100	10200	13300	16400
2	6100	11300	16400	21500	26700
3	8200	15400	22600	29800	37000
4	10200	19500	28700	38000	47200
5	12300	23600	34900	46200	57500
6	14300	27700	41100	54400	67800

算出式：別刷代金 $=[(4000 \times m - 2000) \times \text{頁数} + 2000 \times m] \times 1.028$ （単位：円（100円未満は切り捨て）），

ここで， $m=1+(\text{部数}-50)/100$ ，係数1.028は消費税増税分に相当する．

カラー印刷代金は1頁3万円とし，編集委員会が必要と認めるものに限り無料とする．